

CONNECTING THE DOTS

JAPAN DEFENSE INDUSTRIAL BASE

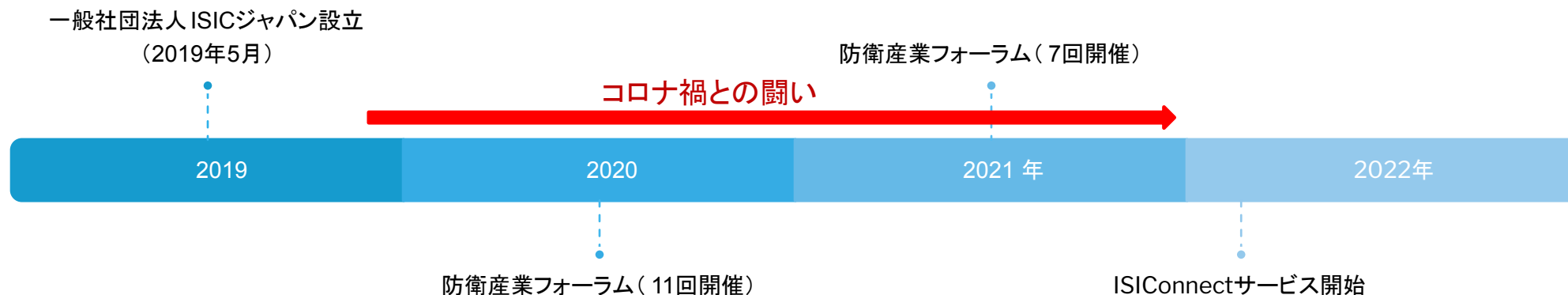
日本の防衛産業を取り巻く課題と将来の方向性について

ISICジャパン防衛産業フォーラムを振り返って



ISICジャパンの設立目的・経緯

ISICジャパンの第一目的は、B2Bによる協業を通して、日本の防衛産業力の強化を図り、グローバルなサプライ・チェーンの一員として日本企業に活躍の場を示していくこと



2021年12月防衛産業フォーラムが問いかけたもの

- ◆ 欧米では、アカデミア(大学、研究機関)が自由意志で防衛コミュニティの一員として、科学技術を通じた安全保障の発展に寄与しているのに対して、日本では「軍事目的のための科学研究を行わない」という学術界の基本方針の下で、アカデミアの参加を否定しているとの差異が存在
- ◆ この背景には、冷戦時代の教訓として特定の防衛装備と密接不可分の関係にある防衛産業に対して、中立的な立場で、純粋に科学技術的視点からの洞察や知見を求めることに無理があることが判明し、アカデミアの存在の重要性が欧米では認識された点は日本としても参考にすべき視点と思われた
- ◆ 日本独自の歴史観というハードルの下で、アカデミアと安全保障・防衛コミュニティが協力し合える機会作りとして防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」が存在する一方、日本版DARPAや米国のFFRDC・UARC等の取組みを参考にした新たなアカデミアとの協力の在り方も考えていくべきではとの問いかけが投げられた

2022年2月防衛産業フォーラムが問いかけたもの

- ◆ 防衛省・自衛隊による様々な努力が行われてきたが、国内防衛予算のみに依存した日本の防衛産業基盤の衰退に歯止はかけられず、今なお危機的な状況が続いている現状が共有された
- ◆ 防衛装備移転3原則による移転事業は防衛産業の維持強化が目的ではなく、「積極的平和主義」という政府外交方針を実現するための外交ツールであることから、防衛産業基盤の維持強化を目的とした防衛装備移転を安全保障政策の一環で、防衛省だけでなく、政府全体で責任をもって推進できるよう、新国家安全保障戦略に明記すべきとの提言が示された(自民党 松川るい参議院議員)
- ◆ 一方、日本の防衛産業自身の立ち位置が、単一顧客の求めに応じた受動的スタンスに留まり、事業規模の縮小や収益性の悪化による社内的立場が弱体化し、レピュテーション・リスクを恐れた抑制的な経営判断などに押さえつけられ、世間的に「死の商人」とバッシングされやすい世相も含め八方塞がりの状況のため、官民一体での新たな協力体制の下で変革していく必要性が確認された
- ◆ 防衛省・自衛隊が将来に向けた運用構想を示し、防衛産業が世界の開発動向や先進技術の有用性を徹底調査した上で、双方向でのインターアクションが推進され、スタート・アップなど新メンバーを加えた防衛産業基盤の活性化の必要性も指摘された

日本の防衛市場の将来成長性(伸びしろ)

◆ 国内防衛予算(GDP比 1% → 2%)

- 従来型装備の維持・更新・能力向上に加え、後方支援、即応体制強化、防衛インフラ基盤の強靱化
- 新領域(宇宙、サイバー、電磁スペクトラム)での能力構築に向けた投資拡大
- 新たな運用構想を踏まえた新規事業領域の拡大
- 先進技術分野のスタートアップ企業が参画した新規事業領域の拡大
- アカデミアとの協業を通じた科学技術分野での研究開発事業の拡大他

◆ 海外市場

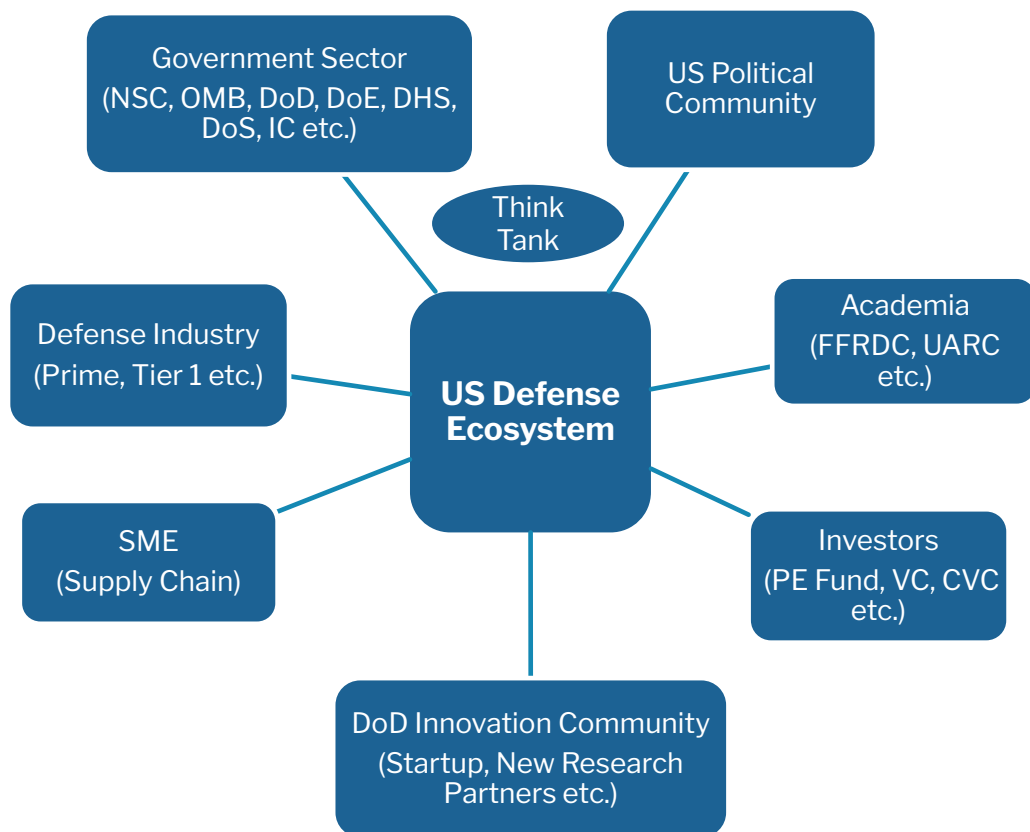
- 外交ツール(積極的平和主義)としての防衛装備移転事業
- 政府主導による共同開発・共同生産機会の開拓
- 防衛産業基盤維持強化のための防衛装備移転事業、海外防衛事業への参画など

◆ 多国間共同プロジェクト

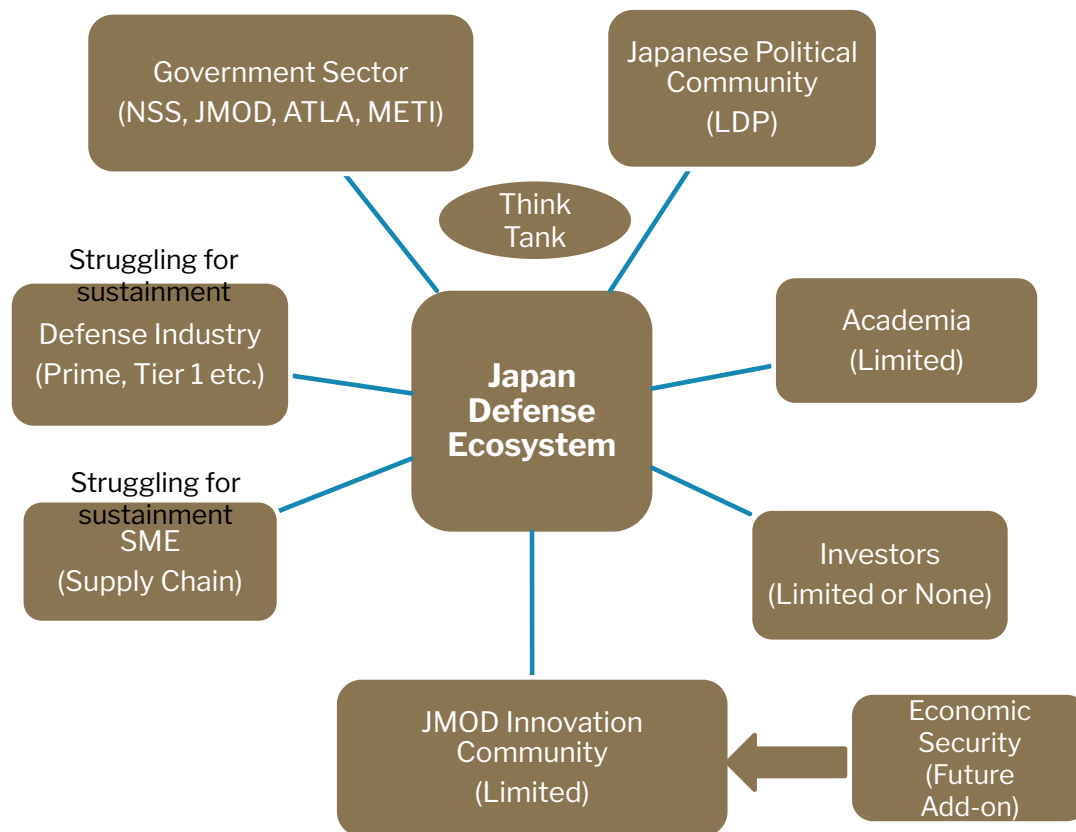
- QUAD、AUKUSなど地域的な多国間協業に基づく安全保障に関わる共同事業の機会(例Maritime Domain Awareness、Space Situational Awareness他)

進化すべき日本の防衛エコシステム(日米比較)

米国の防衛エコシステム



日本の防衛エコシステム



ISICジャパンからのメッセージ

- 2022年は日本の防衛産業にとって大きな転換点であることは間違いありません。ISICジャパンとしては防衛産業フォーラム等のイベントを通じて、日本の防衛産業の維持強化、そして更なる進化に資するイベントを引き続きお届けしながら、海外パートナーとの発展的な交流を促進していく計画です
- ISICジャパンとしても、皆様との双方向交流を図れるよう、ISICConnectの立ち上げや、防衛産業フォーラムでの質問やコメントに対するフィードバックに努めることで、コミュニケーションの双方向化も目指して、ISIC ジャパン・コミュニティ中での意見交流や情報交換を通して具体的成果につながるための場を提供し続けたいと考えています
- 引き続きハイ・クオリティのイベントを提供し続けるためにも、より多くの方々にISIC Japanのイベントに参加して頂くと共に、協賛支援金、寄付、或いはサービス利用料などを通じた財政的支援のご検討も是非お願いしたいと思います。詳しくは、当会ウェブサイトの支援方法(SUPPORT)にアクセス頂き度、宜しくお願い申し上げます
<https://isic-japan.org/membership/>
- 尚、当会の収支報告は2021年度より開示できる体制を整え、支援にご興味のある方からの要請に応じて開示していく予定ですので、この準備が整いましたら、改めてご連絡する次第です